

## 「全鍍連」 2024年 3月号 悠々自適

全鍍連 顧問 溝口 輝明 (溝口鍍金(株) 代表取締役会長)

「悠々自適」



全鍍連の皆様方には、理事在任中（22年間）大変お世話になりました。心から感謝と御礼申し上げます。今年は、元旦早々から石川県能登半島を震源とする大きな地震が発生し被災された皆様方にお見舞いを申し上げます。早期復興を心から願っております。

実は、私も 13 年前に東日本大震災に遭遇し復興の長いトンネルを脱出し新たな生活を確保したばかりの昨今でした。心が痛みます。被災地の皆様、希望をもって前向きに進んでください。

私事ですが、5 年前に会社経営を息子夫婦に任せ退陣致しました。

現在、地域貢献の一環として「メイ アイ ヘルプユー」の合言葉を旗印に国際交流の仕事をさせて頂いております。

始まりは、人と人との交流を促す狙いから 1998 年 2 月に「鹿嶋市国際交流協会」が誕生し早いもので 26 年となります。私が協会長に就任してから 13 年を数え「外国人との異文化共生社会づくりを目指した取り組み」が続いております。

### 主な事業

- \* 外国人による日本語スピーチコンテスト
- \* 外国人との交流バスツアー
- \* 国際理解事業（小学年生対象：外国人による出前講座）
- \* 世界食文化交流会（世界各国の自慢料理交流）など

数年前の全鍍連誌にも本協会の概要を投稿させて頂きましたが、新型コロナ感染拡大防止の観点から 3 年間事業を縮小しておりました。今年度は、事業再開ということになり以下の 2 事業をご紹介します。

最初に「外国人による日本語スピーチコンテスト」をご紹介します。

本年は、市内近隣に住んでいる 9 カ国 10 名が日本での暮らしぶりなどを語った。例年の参加者は、中国、韓国、ベトナム、インドネシア、スリランカ、アメリカ、カナダなどの順でしたが、今年度は、中東イラン美人女性が参加してくれました。私は、イラン（イラン・イスラム共和国）に訪問した事がないのでこの国の情報は、まったく分かりませんが、砂漠の国・宗教色が強い、1980年にイラクと戦火を交えた国、私達が良く知っている原油生産量では、世界 8 位だそうです。

### 発表テーマ「日本とイランの架け橋」（抜粋）

彼女の名は、「モアタリ・セタレ（27歳）」さん、和装振袖を着こなし登壇した。2016 年来日後、日本語・語学院入学しましたが母国語（ペルシャ語）で記述された指導書や教科書が僅かしかなかった為、在学中は、苦心しながら日本語教科書をペルシャ語に翻訳、この教本は、私の宝ですと語られた。

訪日イラン人への夢と思いがこめられた一冊になりましたとのこと。

さらに日本伝統文化である着物の美しさと種類の多さ、気候風土、歴史、食文化などもっともつと母国へ知らせたい。また、両国親善のために今後も「日本とイランの架け橋として力を尽くしたい」との思いを語られた。

10名の発表者の最高賞にあたる「特別賞」を受賞。ご褒美に鹿嶋では一番の老舗焼肉店「樹林」で美味しい肉を食べ国際交流の輪はさらに深まった。



続いて、国際交流協会傘下の「鹿嶋市柔道スポーツ少年団」事業紹介

協会代表者：仮屋 茂



ドイツバイエルン州柔道クラブ「心」同州警察官が運営するクラブで団長・バッハ氏率いる一団やフランスジュウドスポーツクラブ団長ジダン氏率いる小中学生などは、何度となく来鹿しているが、今回の受け入れ国は、ドイツバイエルン州の皆さんです。この企画は、柔道を通じて日本古来の武士道の精神を鍛える目的と受け入れ側の鹿嶋市柔道スポーツ少年団員家庭や国際交流協会会員宅にホームステイを通じて家族との親善がおおきな目的です。お互いに言葉の壁を越えた交流となっている。



公の企画として、茨城県知事公室表敬訪問・僧院座禅体験・警察署柔道部や少年スポーツ少年団員との交流試合・ミッション系幼稚園の児童鼓笛隊歓迎レセプションと食事会に招かれるなど2国の様々な交流はこれからも続く。今年度、我が家で受け入れた 団員2名（ローレンスさんとヨナスさん）をホームステイ。



彼らが一番楽しみにしている「日本本物寿司」千葉県銚子魚港・寿司元祖「島武」（TVよく放送される）でたらふく胃袋を満たした。帰国前夜は、鹿嶋市内和風老舗レストラン「やまびこ」での晚餐会、再会を誓った。



## 夫婦が選んだ温泉付き車中泊

コロナ禍で3密を避ける生活がスタートし3年が経過、すっかり定着した感があります。その様な中でも人は、普段の生活から逃れストレスから解放されたいのが世の常だと思います。私達は、経営第一線から離れたのを切っ掛けに「いつでも何処へでも行ける温泉付きの旅」を選びました。

しかし、温泉地宿泊施設は、まだまだコロナ前には戻らない様子。そこで、子育て時代に経験済みの「オートキャンプ」を選んだのです。テントの設営は無理なのでキャンピングカー選びから始まりました。このプランは、どんどんエスカレート、「キャンピングカー展示場の旅」になるくらい徘徊？し、最後に選んだそれは、バンコン（晩婚ではありません）「バン・コンバージョン」車の母体は、ハイエース（ワイド・ハイルーフ・ロング）昨年5月から運用開始。老人会青年部温泉（かけ流し）の旅がスタートした。

### 「ミステリーツアー」と「神のいたずら」

ある時、私達の娘が、今日は何処行くのとの問いかけに、行先決めてないからミステリーツアーだよーと言いながら出発。迷いながらも明るいうちに目的地へ到着、キャンプ地の登録も万全に済ませた。「さて温泉でも浸かってくるか」明るい時の道路は、何てことないなーと言いながら山道を走り抜け、温泉ですっかり身も心も温まり帰路の山道を2～30分走る…。不慣れな夜道、あたりは真っ暗、車のライトで照らす以外何も見えない、迷ったようだ。道の舗装もなくなり雑草と樹木の生い茂った中2メートルくらいの谷合の小道、右側は、3～4メートル下に沼があるらしい、左側は、小高い崖、ユーターンすることも引き返すことも出来ない、どうする？？。とにかく救助される前に何とかしなければ…。携帯電話を覗くが電波は全く確認とれない、仕方なくそのまま走り続ける…。時間が長く感じた…。神様の救いか、突然狭い谷が開け工事用の大きなパワーショベルを見つけた。何をしていたのか、4～5メートル幅に広がっていた。これを逃せば帰れないとハンドルを何度も何度も切り返し難を逃れた。

安堵の気持ちで目的地に到着、空を見上げると手に取るような星空のご褒美、これも神のいたずらに違いないと確信しゆっくり車中泊、最高の思い出となりました。

最後に、旅の決まりは、私が常用運転手、妻は、隣でサブドライバー（地図が読めないナビゲーター？）約半年の走行距離6000キロ越え、元気印の75歳と73歳初老コンビ「関東圏有名温泉」で皆様とお逢いできること楽しみに走り続けております。

